

9月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 鈴木 駿也

行った主な活動

収穫

本来であれば、白色などの色付きの袋がかかっているぶどうは、収穫前に袋を開けて着色の具合を確認してから収穫する。しかし、今年は好天に恵まれ、さらに夜温が低かったこともあり、特に巨峰は例年より色づきがよかった。そのため収穫前の着色確認作業を省略でき、収穫作業のスピードが速く楽だった。その他の品種も品質が良く、研修先では今までで一番出来が良い年だったそう。



販売

研修先では約30品種のぶどうを栽培しており、特に9月は最も多くの品種が店頭に並ぶ時期である。そのため、お客様に品種ごとの味や食感の違いを上手く説明できるよう、事前に情報を整理して接客に臨んだ。

やはり常陸太田では巨峰と常陸青龍が圧倒的な人気で、次いでシャインマスカットという印象を受けた。しかし、富士の輝や真沙果といった、まだ全国的な知名度の低い品種についても、知っているお客様が多くいらっしゃり、さすがはぶどうの産地だと、改めて実感した。



活動を行った感想など

お彼岸のころには、来客数のピークを迎え、多忙を極めた。この時期はいつも、どの農園でも家族やパートさんたちの支えがあって経営が成り立っていることを強く感じる。これから自分がやろうとしていることも決して一人では成し遂げられないことと理解しているので、いずれ自分が指導する立場になることを意識しながら、師匠の立ち振る舞いなどを見習っていきたい。

今後の目標など

販売も終盤となり、これから自分が研修作業以外に使える時間が増えてくると思う。今後を見据えた活動（具体的には農地探し、農園等視察、栽培や経営の学習）を積極的に行い、有意義な時間活用をしていきたい。

